

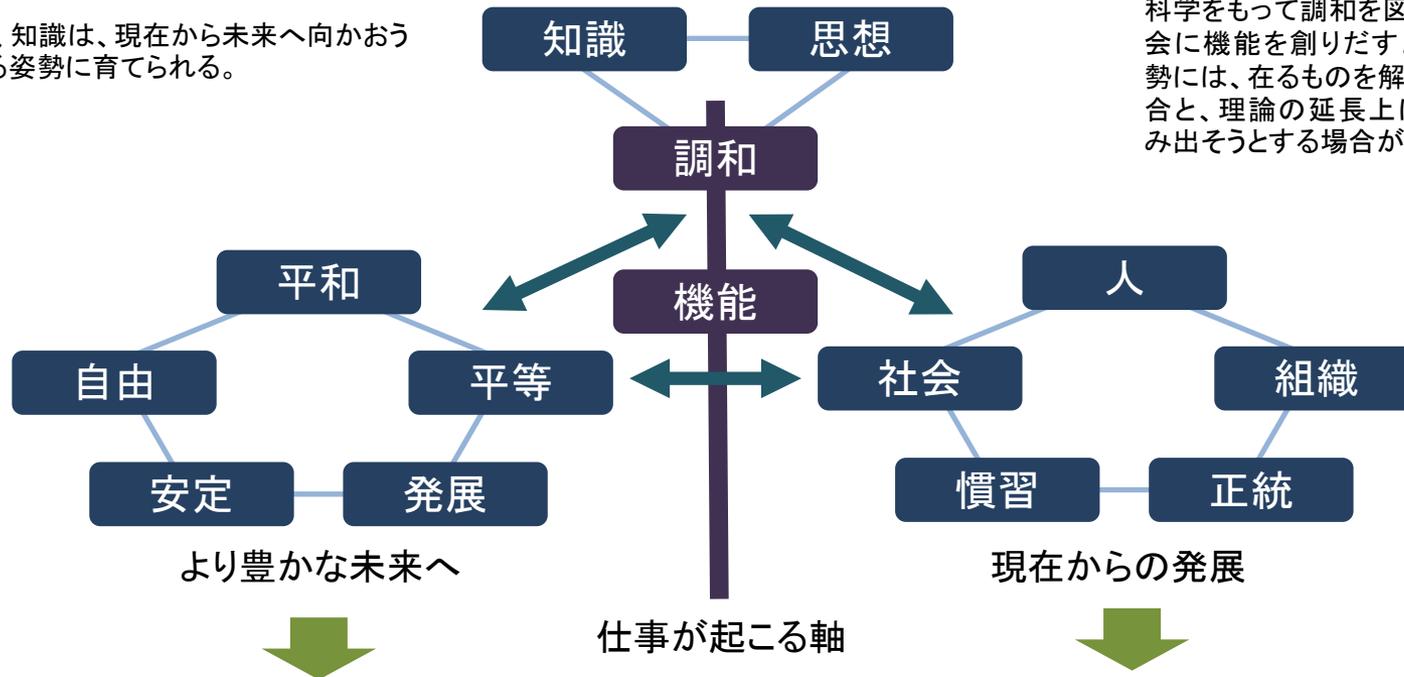
# 社会を視るための原則

社会は常に、自由、平等に向かって進む。自由と平等を阻害するものは如何なる論理も正当化されない。13世紀の宗教人は、現生での不平等と不自由は来生で実現されるとされ、それが現実だった。知性人は、知性で自由と平等が獲得されるとした。19世紀の経済人は経済活動こそが、自由と平等をもたらすとした。どれもが階級社会からは逃れられなかった。今も、自由と平等を求めている。自由と平等が大切な尺度となっている。

## 調和を図りながら機能を創りだす。

思想、知識は、現在から未来へ向かおうとする姿勢に育てられる。

科学をもって調和を図りながら社会に機能を創りだす。科学の姿勢には、在るものを解析をする場合と、理論の延長上に革新を生み出そうとする場合がある。



自由、平等、平和は如何なる時代も、人々が願う状態である。だが、発展を続け、その発展とともに安定していなければ、自由、平等、平和の意味は薄れてしまう。発展があればバランスが崩れやすくなる。発展と安定の中での自由、平等、平和の意味も変化していく可能性がある。

現在の状態は、正統性に於いて秩序が保たれている。秩序は、より確かな自由、平等、平和へと向かう。秩序を保つのは、人と組織、社会が互いに機能しなくてはならない。秩序への概念は、文化からの慣習で凡そが賄われている。慣習と正統性を改善または革新しながら、社会は進化していく。現代を如何なる形で知覚するかが、進歩を押し進める。